

第67回定時総会・ 第66回現代歌人協会賞授賞式報告

宇田川寛之

二〇二二年六月二十三日(木)
十八時より東京神田の学士会館に
おいて、一般社団法人現代歌人協
会の第67回定時総会、第66回現代
歌人協会授賞式が開催された。今
回は理事・監事のみならず、三年
ぶりに一般会員の出席を得たが、

現代歌人 協会会報 172

コロナ禍ゆえにソーシャルディス
タンスを徹底しての開催となっ
た。

定時総会の司会は中川佐和子。
議決権を有する協会の会員総数
八百八十七名のうち総会出席者
三十五名、委任状提出四七一名、
定款第十三条の定める定足数に達
していることが確認され、総会の
成立が報告された。

最初に栗木京子理事長より挨拶
があり、今年は理事のみでなく一
般会員が参加できたことを喜ん
だ。その後、議事に移り、議長は

定款第十六条に従い、栗木理事長

が務めた。まず栗木から二〇二一
年度の事業報告があった。三月
二十七日開催のシンポジウム「コ
ロナの時代の短歌」はオンライン
配信を試み、百名を超える視聴者
があったこと、またホームページ
のリニューアルし、会員外にも広
く公開されているなど。同収支決
算報告を加藤英彦が、同監査報告
を木村雅子が行い、それぞれ承認
された。

次に栗木理事長から二〇二二年
度の事業計画案を発表。全六回
のうち六月までに既に三回開催され
ている公開講座、第51回の全国短
歌大会、『2022年 コロナ禍歌
集』刊行など、新しい世の中の状
況を意識しつつ、可能な形での運
営を試みたいとのことであった。

その後、加藤英彦から二〇二二
年度の予算案の説明があり、承認、
新監事として篠弘、木村雅子、桑
原正紀の三氏を承認。

続いて、坂井修一副理事長より
二〇二二年の新会員三十九名が紹
介され、承認された。

議事審議の終了後、今回から協
会賞選考委員長を務める東直子よ

り第66回現代歌人協会賞の選考経
過報告があった。会員より推薦を
得た後、候補を工藤玲音『水中で
口笛』、奥村知世『工場』、山木礼
子『太陽の横』、竹中優子『輪を
つくる』を含めた六冊にしほり、
オンライン会議を経て、四月十四
日、対面での選考会を開催。北辻
一展『無限遠点』、平岡直子『み
じかい髪も長い髪も炎』という異
なる魅力の二冊に受賞が決定した。

定時総会終了後、時間を少しお
き、同じ会場で受賞歌集版元、マ
スコミ関係者、著者の友人の出席
を得て、現代歌人協会賞の授賞式
が開催された。まずは栗木理事長
より「受賞者ふたりの言葉に対す
る誠実な思いと覚悟に今後を期待
する」と挨拶。次いで東直子委員
長より歌人協会賞の経過報告。「多
様化を深める短歌の世界で、個性
が際立ち、学生時代から着実に短



現代歌人協会賞受賞者の北辻一展氏(左)と平岡直子氏

歌を深めているふたり」と紹介が
あった。

次に選考委員からの祝辞。

北辻一展歌集に対して、梅内美
華子より「静かに丹念に表現して
いる。対象を丁寧に見つめ、派手
さはないが落ち着いており、青年
期のほろ苦さがある」、外塚喬副
理事長より「言葉に対するこだわ
りがある。読者と作者の距離感が
なく、素材の幅が広いことに注目
した」。

平岡直子歌集に対して、小島ゆ
かりより「何より作品に魅力と迫
力がある。集団の中での新しさ、
獨創性が際立つ」と賛辞、富田睦
子より「難解ではあるが、不思議
な感覚がある。予定調和を壊し、
独特のポエジーにインパクトがあ
った」。

賞状・副賞授与、花東贈呈の後、
受賞者の挨拶。北辻氏は「今後、
現代短歌が積み上げてきた歴史を
見返し、その土台に立ち、自らの
表現を進めたい」、平岡氏は「こ
れまでの中間報告書の承認という
ハンコをもらった感じている」と
率直に思いを述べた。それぞれ個
性を感じる言葉で喜びを伝えた。

本来であれば祝賀懇親会が行わ
れるが、コロナウイルス感染拡大
状況を鑑み今回も行われず、名残
惜しく散会となった。今年こそは
十二月に同じ学士会館で、久しぶ
りに祝賀会・忘年会を開催し、多
くの参加を期待したいとした。